

2016年 平和首長会議及びHIROSHIMA and PEACEに関する報告書
文化芸術交流を通じた平和構築

チェンルー（トレーシー）・ツェイ
（モントリオール市・カナダ）

2016年8月22日

個人的考察：
広島での平和構築における芸術の役割

プログラムの後、私の平和に対する理解はますます曖昧になりつつあります。さまざまな経歴の教授陣による講義で学び、グループディスカッションに参加した後、私たちの多くは、平和とは目に見える戦争の不在にとどまらず、目に見えるものと見えないものとの間に脈々と流れるものだという総意に至りました。後者は世界に向けた被爆者のメッセージ、そして平和に関する多様な見解から成り立っています。平和に明快な定義をあてはめることはできませんが、平和は以下の要素を含むべきだと私は考えます。さまざまな集団による共通の基盤、公共性、個人の安全、そして自由です。

しかし、歯止めのきかないグローバリゼーションと資本主義の支配下にある現代社会は、そうした包括的な平和の実現に向けて大きな困難に直面しています。例えば、マスメディアによるイメージ形成の操作、実体験の不足に起因する擬似環境への依存、当局筋の権威主義、そして消費者主義と監視、産業主義、軍国主義に派生する現代社会の諸問題などです。

私の見解では、こうした不可避かつ内在的な社会的、またイデオロギー上の問題は、芸術活動を通じた平和構築への取組により軽減することが可能です。

平和構築及び平和のメッセージにおける芸術の重要な役割は、以下の3つの側面から説明できます。

1. 芸術活動は、現在の平和構築の議論における言語の覇権、つまり英語の優位性を克服することができます。その他の提示及び情報伝達の形式と異なり、芸術は言語能力への依存度が低く、覇権主義的な結論の枠に受け手を縛ることなく、より多様な解釈を認めます。
2. 芸術はマスメディア及び行政当局により広められる公式声明に替わる重要な声を提供します。諸国間における芸術の移転は、重要な文化及びイデオロギーの交流の役割を果たします。創造芸術における想像の余地と表現の自由は、外国に対するステレオタイプな見方を打破し、未知のものに対するより中立的で真正なイメージを構築する助けになります。こうして、一定の範囲で平和構築のプロセスにおける政治的及び経済的利得の行きすぎた支配的影響を軽減するのです。
3. 最後に忘れてならないのは、創造的プロセスはそれぞれの芸術家による持続的なプロセスであ

ることです。加えて、芸術は、表現形式に関係なく、芸術家と鑑賞者の間の持続的な交流です。また直接的な環境に依存するものであり、双方の個人的な努力と関わりを必要とします。そのため、芸術を通じた平和構築は常に直接的な個人の体験を伴うものであり、こうした体験が自立的かつ自発的な平和の概念を得るために必要なのです。

平和構築活動の提案： モントリオールと広島芸術交流

背景：

- 2都市には平和構築において長く続いている絆があります。
- 両都市とも地元の新進アーティスト及び著名アーティストの文化拠点として活気があります。
- モントリオールには中規模から大規模な展示会及びパフォーマンス用の数多くの文化スペースや上演会場があります。

イベント及びプログラム：

1. 「一瞬そして無限の光」制作：エリン、マユミ

概要：「一瞬そして無限の光 (Momentary and Infinite Light)」はアメリカ人アーティストのエリン・オハラ・スラヴィックと日本人アーティストの松尾真由美による合同展覧会です。どちらのアーティストも広島と福島に残されたものの画像を使用し、原爆と原子力発電所の所産である目に見えないながらも甚大な影響を視覚的かつ詩的に明るみに出します。

詳しい情報照会先：

<http://gallery-g.jp/exhibition/elin-ohara-slavick-matsuo-mayumi%E3%80%80/>

<http://www.elinoharaslavick.com>

<http://www.mayumimatsuo.com>

2. 「黒い雨」出演：アーティスト多数

概要：「黒い雨」は演劇、舞踊、音楽、植物アートを組み合わせた集合的パフォーマンスです。さまざまな経歴と国籍のアーティストが異なる芸術様式を使って、黒い雨を浴びた被爆者を含め、認知されていない被爆者の問題に取り組みます。彼らは重度の身体的・精神的問題に苦しみ、社会や政府当局からの根強い差別に直面してきました。このパフォーマンスは、旧日本銀行広島支店で開催されたドイツ人写真家トーマス・ダムの写真展「黒い雨の被爆者—影から出でて (Black Rain Hibakusha – Out of the Shadow)」にインスピレーションを得たものです。認知されていない被爆者たちの勇気と愛に満ちた人生を称えることを目的にしています。

詳しい情報照会先：

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/event/content0404.html>

3. 広島と原爆に関する映像作品の上映

広島平和記念資料館のアーカイブにあるドキュメンタリー、証言ビデオ、映像作品。

詳しい情報照会先：

http://www.pcf.city.hiroshima.jp/index_e2.html

会場及び後援団体の候補

(特に政治及び社会正義の分野での活動が活発な候補)：

モンリオールのアートギャラリー：

- アーティキュール (<http://www.articule.org>)
- ダジバオ (大字報) (<http://dazibao-photo.org/en/>)
- フィ・サントル (<https://phi-centre.com/en/>)

モンリオールのライブ会場：

- ダイヴァン・オレンジ (<http://divanorange.org>)
- レゾナンス・カフェ (<http://www.resonancecafe.com>)

モンリオールの上映会場：

- シネマ・ポリティカ (<https://www.cinemapolitica.org/concordia>)
- ル・シネマティーク・ケベコワーズ (<http://www.cinematheque.qc.ca/en>)
- HOWL! アーツ・コレクティヴ (<http://howlarts.net>)

その他の協力者及び後援者：

- マギル大学：トーマス・ラマール教授 (東アジア研究)
(<http://www.lamarre-mediaken.com/Site/Home.html>)
- 古畑百合子教授 (東アジア研究) (<http://www.yurikofuruhata.com>)
- コンコルディア大学
- モントリオール日系文化会館
- モントリオール市
- 平和首長会議広島事務局
- 平和首長会議モンリオール支部
- 広島市立大学